

対話型授業(2017/6/5)

地球温暖化防止のため、太陽光発電の普及は急務であるので、それに伴う生活コストの増大や格差の拡大は許容すべきだ。

<賛成>

1. 長期で見たときのメリットが大きい(壊滅的な異常気象・・・)
2. 代替エネルギーの先送りは許されない
3. 今後のコスト低下と技術革新の促進につながる
4. 買い取り価格は下がっているので、格差拡大に抑制がかかっている
5. 科学の進歩には格差がつきものである
6. ソーラーパネルは被災地での新たな産業や支援につながる
7. 化石燃料が枯渇したときの代替エネルギーを確保しておかねばならない
8. 温暖化の不利益は全人類にかかる
9. 普及によって技術革新を促すとコストも下がる

投票の結果: 賛成1, 反対7

<反対>

1. 広い土地が必要で野生生物に悪影響
←砂漠ならば悪影響は少ない←砂漠でも鳥が死ぬ, 砂漠の労働はきついで人件費がかかる
2. 日照時間にも地域間で格差がある
3. パネルが劣化すると効率が悪くなる
4. 多少の生活レベルの低下は許容できる
5. 節電が先だ2
6. 急激な変化にはいろいろなひずみが生じる(過疎地での送電など)
7. ジョン・ロールズの格差原理(最も恵まれない人の利益となる格差は許容すべき) 促進賦課金はこの原理からはずれている
8. 太陽光発電に限定するべきでない
9. 日照権が法的に定まっていない
10. 太陽光パネルも製造にCO2を排出する
11. パネルの反射光で熱中症

賛否の割合(2017/6/5)

討論前			
学部	賛成	反対	合計
法文	22	63	85
総合理工	5	8	13
生物資源	30	31	61
人間科学	15	18	33
合計	72	120	192
(%)	37.5	62.5	100.0

討論後			
学部	賛成	反対	合計
法文	20	65	85
総合理工	3	10	13
生物資源	23	38	61
人間科学	12	21	33
合計	58	134	192
(%)	30.2	69.8	100.0

判定			
学部	賛成	反対	合計
法文	14	71	85
総合理工	6	7	13
生物資源	17	44	61
人間科学	10	23	33
合計	47	145	192
(%)	24.5	75.5	100.0

今後1・2回討論？			
学部	賛成	反対	合計
法文	78	7	85
総合理工	12	1	13
生物資源	54	7	61
人間科学	31	2	33
合計	175	17	192
(%)	91.1	8.9	100.0

どちらが充実していたか(説得力・斬新さ)？

- ✓ 合意が得られない課題についての議論に意味を見いだせましたか？
- ✓ 意見が一致しなくても、お互いに学び合えましたか？
- ✓ 「対立や葛藤の中にこそ、創造の種がある」とも言われます。